

第3部第4章第5節「不法行為成立を阻却する事由」

【設例】

1. 7歳のAは、Bを突き飛ばして怪我をさせた。BはAに対して不法行為責任を追及することができるか。[構造1(2)]
2. Aは、病気で意識が朦朧としている間にBにぶつかって怪我をさせた。Bは、Aに対して不法行為責任を追及することができるか。[構造1(3)]
3. Aは、Bが包丁で襲ってきたので、足元にあった石を拾ってBに投げつけた。それによってBは怪我をした。Aは、Bに対する不法行為責任を回避するために、どのような主張ができるか。[展開2(1)]
4. Aは、Bが包丁で襲ってきたので、逃げようと身を翻した瞬間にCにぶつかった。それによってCは怪我をした。Aは、Cに対する不法行為責任を回避するために、どのような主張ができるか。[展開2(1)]
5. Aは、Bが包丁でCを襲っているのを見て、Cを助けようとBを思い切り突き飛ばした。それによってBは怪我をした。Aは、Bに対する不法行為責任を回避するために、どのような主張ができるか。[展開2(1)]
6. Aは、Bの飼い犬甲が襲ってきたため、落ちていた石を拾って甲に投げつけた。それによって甲は怪我をした。Aは、Bに対する不法行為責任を回避するために、どのような主張ができるか。[展開2(2)]